

第5章

地域別まちづくりの方針

本章では、合併前の町村を念頭に置いて区分した3つの地域について、各地域の将来像、特徴と課題、まちづくりの方針を示します。



地域	該当する小地域
白潟地域	古所、五井、八斗、鷺、中里、幸治
南白亀地域	浜宿、牛込、剱金、五井
関地域	北日当、南日当、福島、関、北高根

白潟地域

(1) 将来像

来訪者をもてなし、にぎわいと活力があふれる交流のまち

宿泊施設が多数立地している白潟地域は、町民の暮らしや豊かな自然環境との調和を図りながら拠点整備と拠点周辺への都市機能の集積を推進し、町民の生活利便性の向上とともに、町民と来訪者の交流を通じたにぎわいと活力があふれるまちを目指します。

(2) 地域の概況

令和2（2020）年国勢調査によると白潟地域の人口は4,187人で、高齢化率は40.3%となっています。令和27（2045）年には2,484人まで人口が減少することが予測されており、高齢化率は50%を上回る想定です。

人口分布をみると沿岸部に人口密度の高いエリアがみられ、土地利用においても沿岸部に住宅・商業が位置していることが分かります。

(3) 特徴と課題

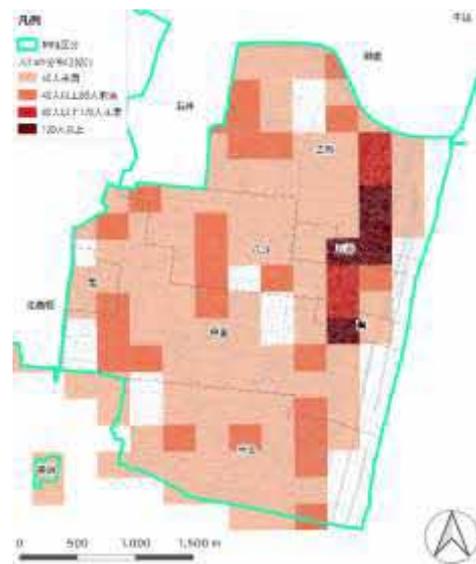
白潟地域の概況整理を踏まえ、5つのまちづくりのテーマごとに特徴と課題を整理しました。

テーマ	概況
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・白子車庫と茂原駅や本納駅、大網駅を往復する路線バスのほか、東京駅および千葉駅と白子町を結ぶ高速バスが運行している。 ・将来的に整備される生活拠点にバスでアクセスすることができるが、路線バスの運行本数は十分ではない。
健幸	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所、高齢者福祉施設、運動施設などが立地している。 ・砂浜や海岸沿いの桜並木、河川沿いの遊歩道など、ウォーキングを楽しむことができる環境がある。
交流・経済	<ul style="list-style-type: none"> ・テニスコートを有する宿泊施設が多く立地しているが、施設の老朽化が進んでいる。 ・白子温泉、海岸、スポーツ施設、たまねぎ狩り、しらこ桜などの観光資源がある。 ・九十九里有料道路の白子インターチェンジが立地しているほか、高速バスの停留所があるため、広域からの玄関口と言える。 ・県道茂原白子バイパスの整備により沿道利用のポテンシャルが高まることが期待される。
環境・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜や海岸沿いの桜、河川沿いの遊歩道、農地など、多様な水と緑の資源が存在する。 ・全域で天然ガスが供給されている。 ・遊休農地が点在している。
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・河川氾濫による浸水が広範囲で見込まれるほか、概ね全域が津波浸水想定区域である。 ・ただし、洪水浸水・津波浸水に対する避難施設は確保されている。

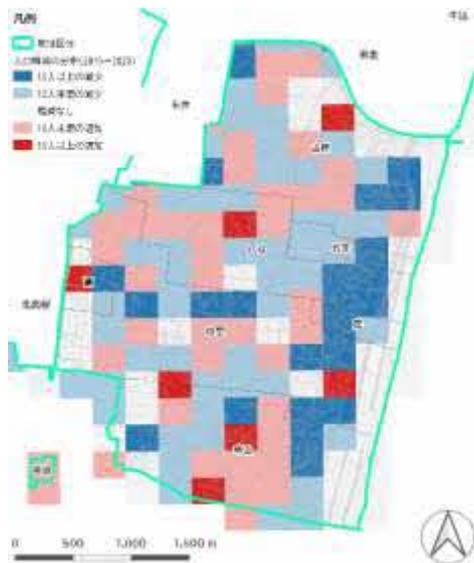
■ 2045（令和27）年にかけての人口の推移



■ 2020（令和2）年の人口の分布



■ 2020（令和2）年にかけての人口増減の分布



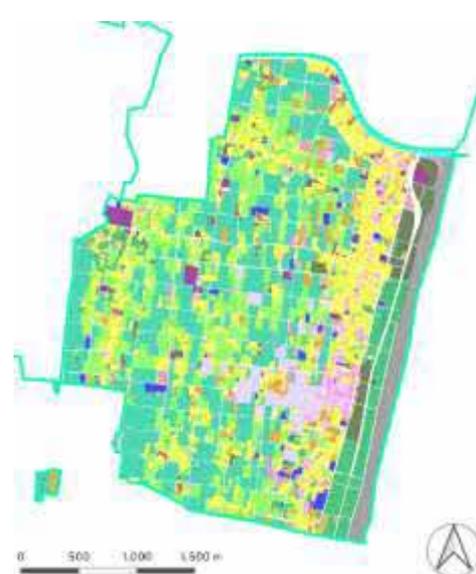
■ 2024（令和6）年のバス路線網



■ 2021（令和3）年の土地利用面積の割合



■ 2021（令和3）年の土地利用現況

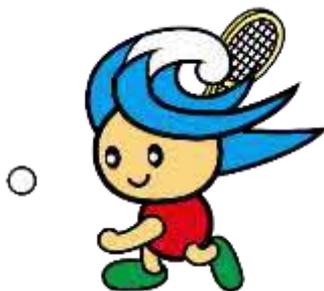


(4) 地域の将来像の実現に向けた取組

第4章におけるまちづくりのテーマごとの方針の実現に向けた取組を踏まえ、白潟地域の将来像の実現に向けた取組を次のとおり設定します。

取組の柱	該当する具体的な取組
テーマ：暮らし	
生活拠点ゾーンの形成	<p>○町民の生活を支える機能の集約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県道茂原白子バイパスの開通を見据え、現在の白子中学校付近へ新たな生活拠点ゾーンの形成を目指します。 ・ 拠点形成に向け、土地利用や用途変更に関する課題を明らかにしたうえで、実現に向けた事業手法や都市計画手続きの検討を進めます。
コミュニティ拠点ゾーンの形成	<p>○コミュニティ拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあいセンターや統合後の旧小学校校舎等を活用し、コミュニティ拠点ゾーンを形成します。
生活利便性の向上	<p>○利便性の高い市街地の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海岸沿いの市街地に、にぎわいを創造しながら安全・安心・快適な暮らしを実現していくため、全ての住民が利用しやすい市街地の形成を図ります。
公園・緑地の確保と適正な維持管理	<p>○計画的な公園や緑地の整備・活用・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災の丘や統合後の旧小学校校庭をオープンスペースとして利活用することを促します。
道路網の形成と維持管理	<p>○都市計画道路の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画道路である浜宿幸治線、古所中里線の見直しを行っていきます。
テーマ：健幸	
医療・福祉機能が充実した健幸拠点ゾーンの形成	<p>○健幸づくり拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の白子中学校付近へ新たに健幸づくり拠点ゾーンを形成します。
地域の健幸づくり拠点ゾーンの形成	<p>○健幸づくり拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあいセンターや統合後の旧小学校校舎等を活用し、健幸づくり拠点ゾーンを形成します。
歩きたくなる、自転車で走りたくなる環境の整備	<p>○居心地が良く歩きたくなる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堤防整備とあわせた河川沿いの歩道整備やベンチの設置により、ウォーキングやサイクリングをしたくなる環境づくりに取り組みます。 ・ 今後整備する生活・交流拠点ゾーンには、徒歩や自転車でアクセスしやすく、また回遊もできるような環境形成を目指します。
スポーツを気軽に楽しめる場所の確保	<p>○スポーツを気軽に楽しめる場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内に分布するスポーツ施設の有効活用に向けた検討を行います。

取組の柱	該当する具体的な取組
テーマ：交流・経済	
交流拠点ゾーンの形成	<p>○交流拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来訪者の集客を促すため、待合スペースや観光案内、モビリティ・ハブ等の機能を有した交通結節点を確保します。また、集客機能を有する道の駅や直売所等の設置を検討します。
滞在快適性の向上	<p>○宿泊施設等の更新の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の宿泊施設の老朽化の進行を踏まえ、宿泊施設等の更新や機能のリニューアルを促進するための支援等の検討を行います。
	<p>○滞在快適性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸や河川沿いにベンチやトイレ、展望スポット等の設置を検討します。
テーマ：環境・エネルギー	
持続可能な未来につながる気候変動への対応	<p>○施設整備に対する環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活・交流拠点ゾーンの整備にあたっては、緑化や省エネ対策を推進します。 ・宿泊施設等の更新に際しては緑化や省エネ対策を促します。
テーマ：安全・安心	
自然災害に対する備え (自然災害に対する回避・低減)	<p>○統合後の旧小学校校舎等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な避難施設を確保するため、統合後の旧小学校校舎等を活用します。
	<p>○災害に強く安心して暮らせるまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川氾濫の抑制のため、関係機関との連携・協議を図り、南白亀川の堤防整備を進めていきます。
災害時に対応した都市機能の確保と円滑な復興	<p>○県道茂原白子バイパスの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難、救護・救援、復旧・復興を支える道路として、県道茂原白子バイパスの早期整備に向けて、関係機関との連携を強化していきます。



(5) 白潟地域のまちづくりの方針図

■生活・交流拠点ゾーン

<暮らし>

- ・ 県道茂原白子バイパス開通を見据えた中心市街地の形成
- ・ 拠点の形成に向けた実現化手法の検討

<健幸>

- ・ 健幸づくり拠点ゾーンの形成、行政サービスや医療・福祉機能の集約
- ・ 徒歩や自転車でアクセス、回遊したくなる空間づくり

<交流・経済>

- ・ 交通結節機能や集客機能の確保

<環境・エネルギー>

- ・ 施設の整備にあわせた緑化や省エネ対策の推進

■県道茂原白子バイパス

<安全・安心>

- ・ 災害時に対応した都市機能の確保と円滑な復興

■コミュニティ拠点・健幸づくり拠点ゾーン

<暮らし>

- ・ コミュニティ拠点ゾーンの形成

<健幸>

- ・ 健幸づくり拠点ゾーンの形成

■統合後の旧小学校校舎等

<暮らし>

- ・ 旧校庭の利活用促進

<健幸>

- ・ 旧校舎等のスポーツ施設としての活用の検討

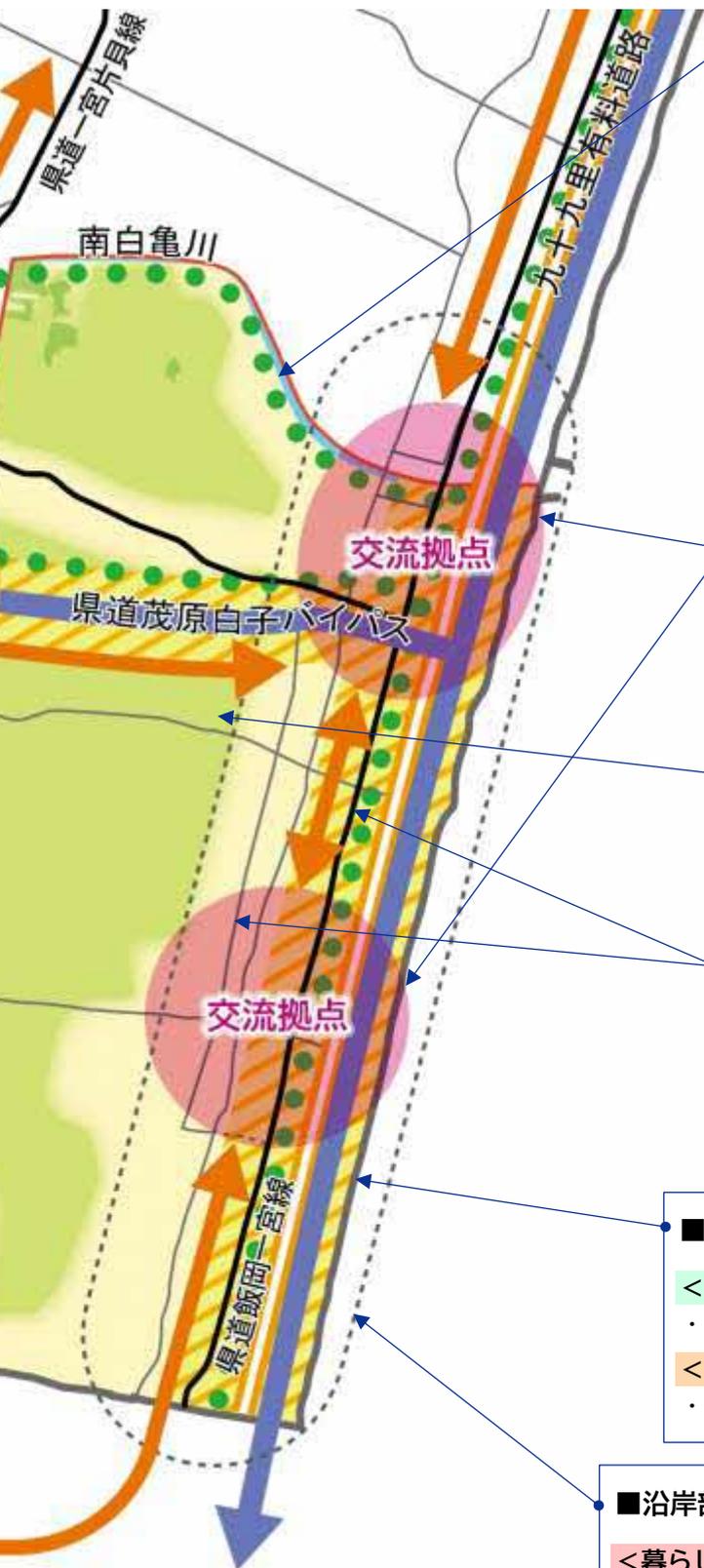
<安全・安心>

- ・ 旧校舎等の避難施設としての活用



凡例

拠点ゾーン	エリア	ネットワーク	交通・その他
● 交流拠点ゾーン	■ 交流エリア	←→ 広域ネットワーク	— 有料道路
● 生活拠点ゾーン (シビックコア)	■ 沿道利用エリア (産業等)	←→ 公共交通ネットワーク	— 県道
● コミュニティ拠点ゾーン	■ 住宅エリア	⋯ 歩行者・自転車ネットワーク (交流軸)	— 一般道
	■ 住宅・農地共生エリア		— 河川
	■ 平地林、屋敷林		



■河川沿い

<健康>

・歩道整備やベンチの設置等、ウォーキングやサイクリングをサポートする空間づくりの推進

<交流・経済>

・ベンチやトイレの設置等による滞在快適性の向上

<安全・安心>

・関係機関との連携・協働による南白亀川の堤防整備の促進

■交流拠点ゾーン

<交流・経済>

・交通結節機能や集客機能の確保
・展望スポットの設置等、滞在快適性の向上

■しらかた防災の丘

<暮らし>

・防災の丘の公園的な利活用促進

■都市計画道路 浜宿幸治線
古所中里線
中里線

<暮らし>

・都市計画道路の見直し

■海岸

<健康>

・ベンチの設置等、歩きやすい空間づくりの推進

<交流・経済>

・快適に滞在できる空間づくり

■沿岸部の既成市街地

<暮らし>

・全ての住民が生活しやすい環境の整備

<交流・経済>

・老朽化が進む宿泊施設等の更新の促進

<環境・エネルギー>

・宿泊施設等の更新にあわせた緑化や省エネ対策の促進

南白亀地域

(1) 将来像

豊かな水と緑に囲まれた、ゆとりと潤いのあるまち

農業が盛んな南白亀地域では、水と緑の保全を図ることで農による交流人口の獲得を図るとともに、自然災害への備えを高め、町民が豊かな自然を享受しながら安全・安心に住み続けられるようなまちづくりを目指します。

(2) 地域の概況

令和2（2020）年国勢調査によると南白亀地域の人口は3,115人で、高齢化率は39.9%となっています。令和27（2045）年には2,106人まで人口が減少することが予測されており、高齢化率は50%を上回る想定です。

人口分布をみると沿岸部に人口密度の高いエリアがみられ、それ以外のエリアは農地として利用されています。

(3) 特徴と課題

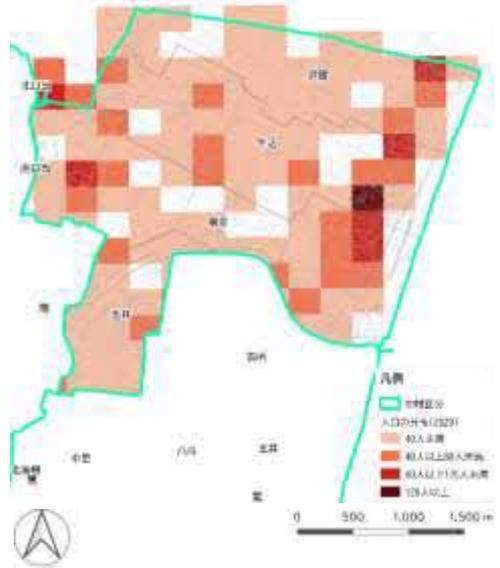
南白亀地域の概況整理を踏まえ、5つのまちづくりのテーマごとに特徴と課題を整理しました。

テーマ	概況
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・白子車庫と茂原駅や本納駅、大網駅を往復する路線バスが運行している。 ・将来的に整備される生活拠点にバスでアクセスすることができるが、路線バスの運行本数は十分ではない。
健幸	<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜や海岸沿いの桜並木、河川沿いの遊歩道、なばき防災の丘、ウミガメの丘など、ウォーキングを楽しむことができる環境がある。
交流・経済	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンスポーツやたまねぎ狩り、しらこ桜等の観光資源がある。
環境・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜や海岸沿いの桜、河川沿いの遊歩道、農地など、多様な水と緑の資源が存在する。 ・全域で天然ガスが供給されている。 ・遊休農地は他地域に比べて少ない。
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・河川氾濫による浸水が広範囲で見込まれるほか、概ね全域が津波浸水想定区域である。 ・河川氾濫による浸水が発生した際、一部で3日以上浸水継続が予想されている。 ・ただし、洪水浸水・津波浸水に対する避難施設は確保されている。

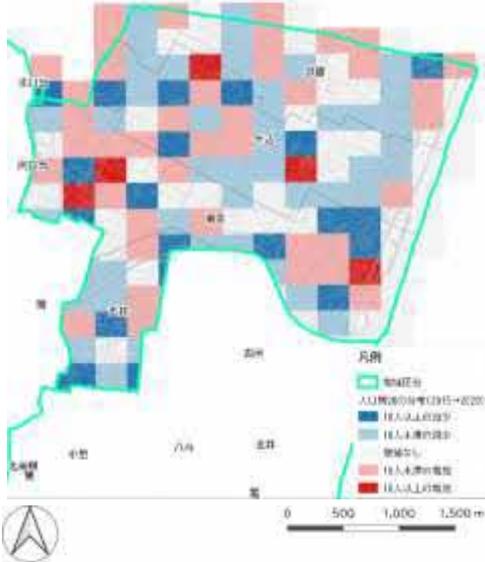
■ 2045（令和27）年にかけての人口の推移



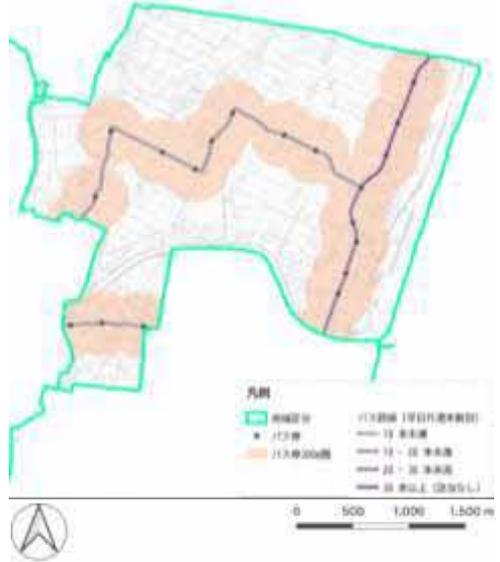
■ 2020（令和2）年の人口の分布



■ 2020（令和2）年にかけての人口増減の分布



■ 2024（令和6）年のバス路線網



■ 2021（令和3）年の土地利用面積の割合



■ 2021（令和3）年の土地利用現況



(4) 地域の将来像の実現に向けた取組

第4章におけるまちづくりのテーマごとの方針の実現に向けた取組を踏まえ、南白亀地域の将来像の実現に向けた取組を次のとおり設定します。

取組の柱	該当する具体的な取組
テーマ：暮らし	
生活拠点ゾーンの形成	<p>○町民の生活を支える機能の集約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県道茂原白子バイパスの開通を見据え、現在の白子中学校付近へ新たな生活拠点ゾーンの形成を目指します。 ・ 拠点形成に向け、土地利用や用途変更に関する課題を明らかにしたうえで、実現に向けた事業手法や都市計画手続きの検討を進めます。
コミュニティ拠点ゾーンの形成	<p>○コミュニティ拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあいセンターや統合後の旧小学校校舎等を活用し、コミュニティ拠点ゾーンを形成します。
生活利便性の向上	<p>○利便性の高い市街地の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海岸沿いの市街地に、にぎわいを創造しながら安全・安心・快適な暮らしを実現していくため、全ての住民が利用しやすい市街地の形成を図ります。
公園・緑地の確保と適正な維持管理	<p>○計画的な公園や緑地の整備・活用・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災の丘や統合後の旧小学校校庭をオープンスペースとして利活用することを促します。
道路網の形成と維持管理	<p>○都市計画道路の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画道路である浜宿幸治線の見直しを行っていきます。
テーマ：健幸	
医療・福祉機能が充実した健幸拠点ゾーンの形成	<p>○健幸づくり拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の白子中学校付近へ新たに健幸づくり拠点ゾーンを形成します。
地域の健幸づくり拠点ゾーンの形成	<p>○健幸づくり拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあいセンターや統合後の旧小学校校舎等を活用し、健幸づくり拠点ゾーンを形成します。
歩きたくなる、自転車で走りたくなる環境の整備	<p>○居心地が良く歩きたくなる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堤防整備とあわせた河川沿いの歩道整備やベンチの設置により、ウォーキングやサイクリングをしたくなる環境づくりに取り組みます。 ・ 今後整備する生活・交流拠点ゾーンには、徒歩や自転車でアクセスしやすく、また回遊もできるような環境形成を目指します。
スポーツを気軽に楽しめる場所の確保	<p>○スポーツを気軽に楽しめる場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内に分布するスポーツ施設の有効活用に向けた検討を行います。

取組の柱	該当する具体的な取組
テーマ：交流・経済	
交流拠点ゾーンの形成	<p>○交流拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来訪者の集客を促すため、待合スペースや観光案内、モビリティ・ハブ等の機能を有した交通結節点を確保します。また、道の駅や直売所等の集客機能の設置を検討します。
地域資源（自然・農地等）を活用した新たな観光資源の創出	<p>○観光資源の維持・育成・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が有する地域資源（例：マリンスポーツ、たまねぎ狩り等）の有効活用を図る観点から、既存の観光資源の魅力向上や SNS 等を活用した情報発信を行うとともに、グリーンツーリズムやアグリツーリズム、スポーツツーリズムなど、新たなニーズに対応した取組を関係者と連携を図りながら推進していきます。
滞在快適性の向上	<p>○滞在快適性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸や河川沿いにベンチやトイレ、展望スポット等の設置を検討します。
テーマ：環境・エネルギー	
持続可能な未来につながる気候変動への対応	<p>○施設整備に対する環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活・交流拠点ゾーンの整備にあたっては、緑化や省エネ対策を推進します。
テーマ：安全・安心	
自然災害に対する備え（自然災害に対する回避・低減）	<p>○統合後の旧小学校校舎等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な避難施設を確保するため、統合後の旧小学校校舎等を活用します。
	<p>○災害に強く安心して暮らせるまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川氾濫の抑制のため、関係機関との連携・協議を図り、南白亀川の堤防整備を進めていきます。



(5) 南白亀地域のまちづくりの方針図

■統合後の旧小学校校舎等

<暮らし>

- ・旧校庭の利活用促進

<健幸>

- ・旧校舎等のスポーツ施設としての活用の検討

<安全・安心>

- ・旧校舎等の避難施設としての活用

■コミュニティ拠点・健幸づくり拠点ゾーン

<暮らし>

- ・コミュニティ拠点ゾーンの形成

<健幸>

- ・健幸づくり拠点ゾーンの形成

■生活・交流拠点ゾーン

<暮らし>

- ・県道茂原白子バイパス開通を見据えた中心市街地の形成
- ・拠点の形成に向けた実現化手法の検討

<健幸>

- ・健幸づくり拠点ゾーンの形成、行政サービスや医療・福祉機能の集約
- ・徒歩や自転車でアクセス、回遊したくなる空間づくり

<交流・経済>

- ・交通結節機能や集客機能の確保

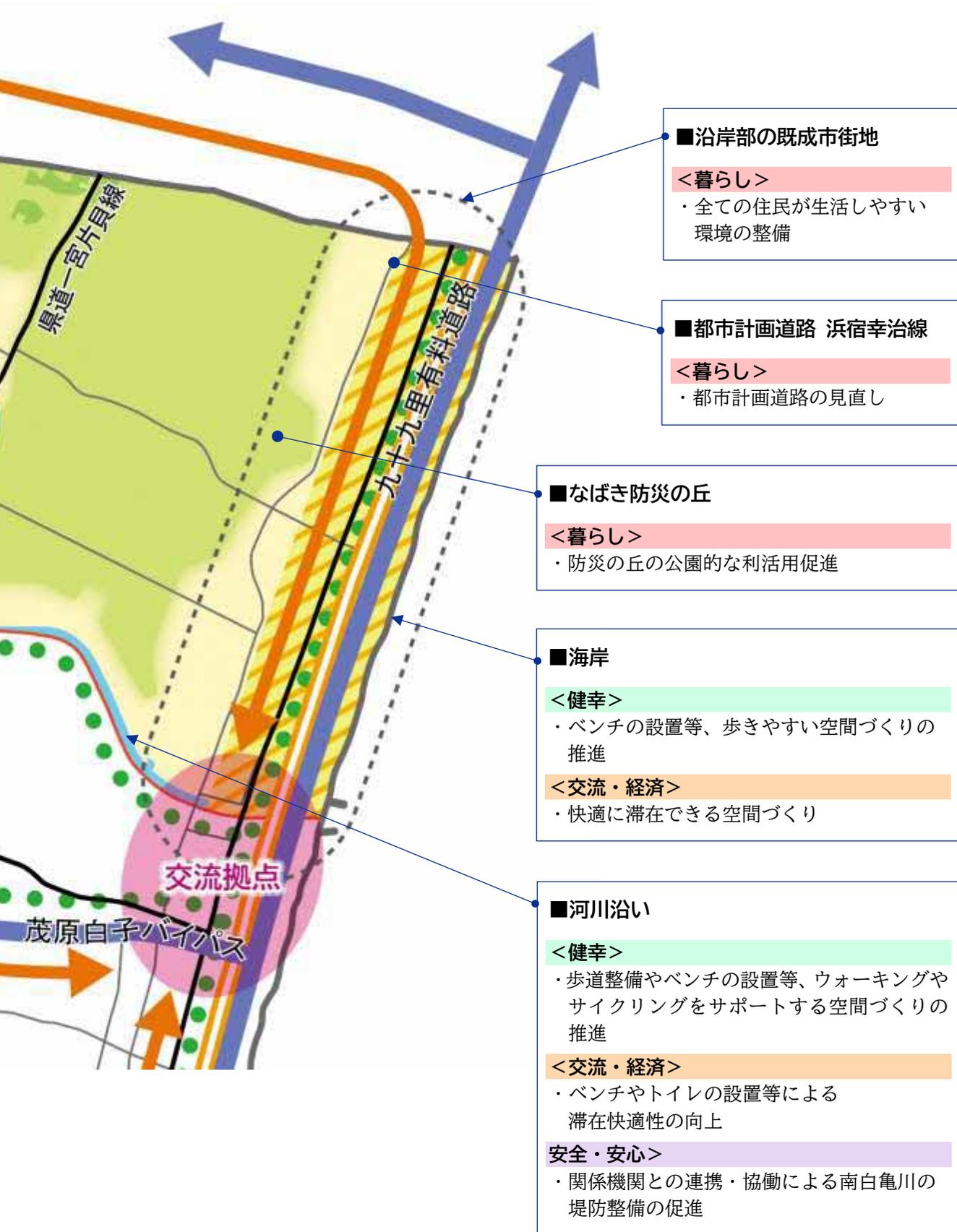
<環境・エネルギー>

- ・施設の整備にあわせた緑化や省エネ対策の推進



凡例

拠点ゾーン	エリア	ネットワーク	交通・その他
交流拠点ゾーン	交流エリア	広域ネットワーク	有料道路
生活拠点ゾーン (シビックコア)	沿道利用エリア(産業等)	公共交通ネットワーク	県道
コミュニティ拠点ゾーン	住宅エリア	歩行者・自転車ネットワーク (交流軸)	一般道
	住宅・農地共生エリア		河川
	平地林、屋敷林		



■沿岸部の既成市街地

<暮らし>

- ・全ての住民が生活しやすい環境の整備

■都市計画道路 浜宿幸治線

<暮らし>

- ・都市計画道路の見直し

■なばき防災の丘

<暮らし>

- ・防災の丘の公園的な利活用促進

■海岸

<健康>

- ・ベンチの設置等、歩きやすい空間づくりの推進

<交流・経済>

- ・快適に滞在できる空間づくり

■河川沿い

<健康>

- ・歩道整備やベンチの設置等、ウォーキングやサイクリングをサポートする空間づくりの推進

<交流・経済>

- ・ベンチやトイレの設置等による滞在快適性の向上

安全・安心>

- ・関係機関との連携・協働による南白亀川の堤防整備の促進



関地域

(1) 将来像

新たなにぎわい・活力と歴史文化が共生するまち

歴史ある集落の様子を感じることのできる関地域では、白子町の歴史文化を継承しながら、県道茂原白子バイパス沿道における都市機能の誘導を促し、町民の生活利便性の向上とともに、産業ならびに観光振興による新たなにぎわいと活力の創出を目指します。

(2) 地域の概況

令和2（2020）年国勢調査によると関地域の人口は3,003人で、高齢化率は41.0%となっています。令和27（2045）年には1,875人まで人口が減少することが予測されており、高齢化率は50%を上回る想定です。

土地利用は多くが農地ですが、他地域とは異なりまとまりのある工業用地が見られます。

(3) 特徴と課題

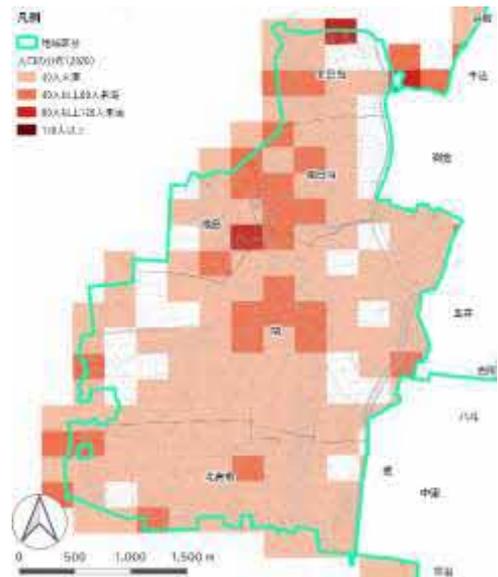
関地域の概況整理を踏まえ、5つのまちづくりのテーマごとに特徴と課題を整理しました。

テーマ	概況
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスが運行しているものの、1日10本未満の運行である。 ・コミュニティ拠点に公共交通でアクセスすることができない。
健幸	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内には診療所が3件立地している。 ・河川沿いの遊歩道や白子神社など、ウォーキングを楽しめる環境がある。
交流・経済	<ul style="list-style-type: none"> ・たまねぎ狩り等の観光資源がある。 ・史跡などの歴史資源が多数分布している。 ・工業用地が比較的多い。
環境・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・河川沿いの遊歩道や農地、羅漢楨など、多様な水と緑の資源が存在する。 ・天然ガスが概ね全域に供給されている。 ・遊休農地が点在している。
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・河川氾濫・津波浸水による浸水想定区域は他地区に比べて限定的である。

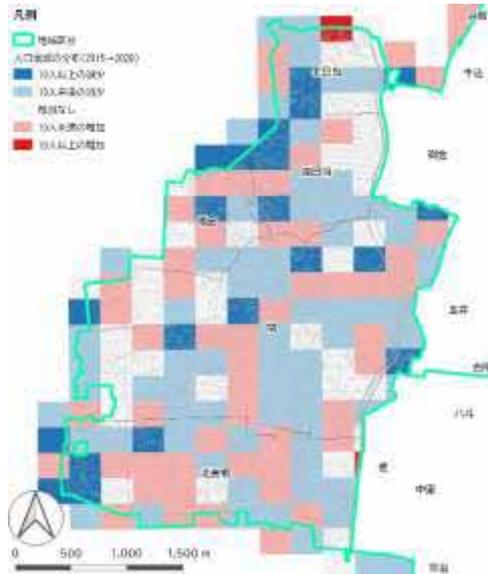
■ 2045（令和27）年にかけての人口の推移



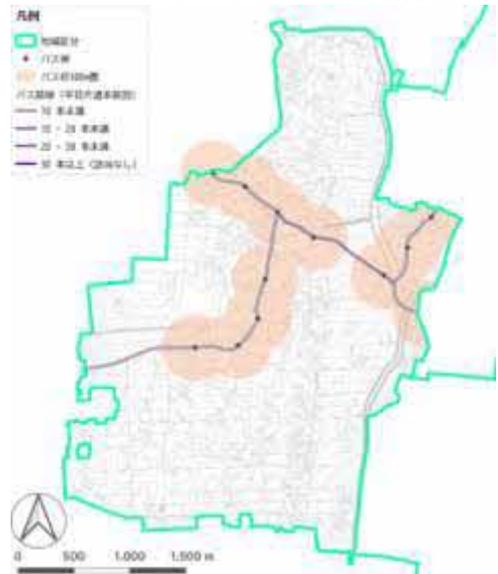
■ 2020（令和2）年の人口の分布



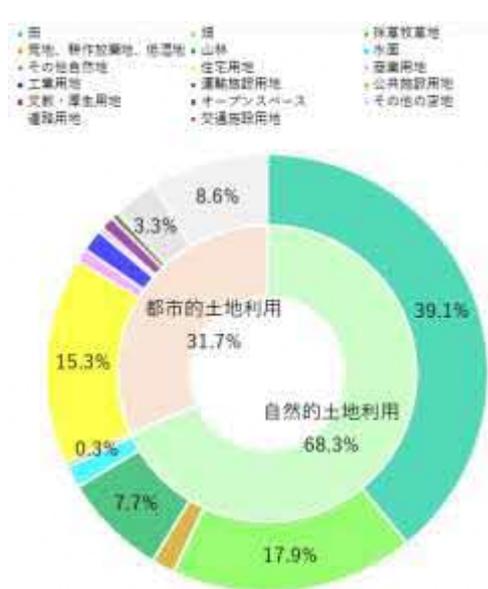
■ 2020（令和2）年にかけての人口増減の分布



■ 2024（令和6）年のバス路線網



■ 2021（令和3）年の土地利用面積の割合



■ 2021（令和3）年の土地利用現況



(4) 地域の将来像の実現に向けた取組

第4章におけるまちづくりのテーマごとの方針の実現に向けた取組を踏まえ、関地域の将来像の実現に向けた取組を次のとおり設定します。

取組の柱	該当する具体的な取組
テーマ：暮らし	
生活拠点ゾーンの形成	<p>○町民の生活を支える機能の集約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県道茂原白子バイパスの開通を見据え、現在の白子中学校付近へ新たな生活拠点ゾーンの形成を目指します。 ・拠点形成に向け、土地利用や用途変更に関する課題を明らかにしたうえで、実現に向けた事業手法や都市計画手続きの検討を進めます。
コミュニティ拠点ゾーンの形成	<p>○コミュニティ拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいセンターや統合後の旧小学校校舎等を活用し、コミュニティ拠点ゾーンを形成します。
公園・緑地の確保と適正な維持管理	<p>○計画的な公園や緑地の整備・活用・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合後の旧小学校校庭をオープンスペースとして利活用することを促します。
道路網の形成と維持管理	<p>○都市計画道路の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県道茂原白子バイパスの更なる整備促進のため、関地域区間の都市計画道路決定への手続きを進めます。
テーマ：健幸	
医療・福祉機能が充実した健幸拠点ゾーンの形成	<p>○健幸づくり拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の白子中学校付近へ新たに健幸づくり拠点ゾーンを形成します。
地域の健幸づくり拠点ゾーンの形成	<p>○健幸づくり拠点ゾーンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいセンターや統合後の旧小学校校舎等を活用し、健幸づくり拠点ゾーンを形成します。
歩きたくなる、自転車で走りたくなる環境の整備	<p>○居心地が良く歩きたくなる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防整備とあわせた河川沿いの歩道整備やベンチの設置により、ウォーキングやサイクリングをしたくなる環境づくりに取り組みます。 ・今後整備する生活・交流拠点ゾーンには、徒歩や自転車でアクセスしやすく、また回遊もできるような環境形成を目指します。
スポーツを気軽に楽しめる場所の確保	<p>○スポーツを気軽に楽しめる場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内に分布するスポーツ施設の有効活用に向けた検討を行います。

取組の柱	該当する具体的な取組
テーマ：交流・経済	
町へのアクセス性の向上と戦略的な産業誘致・育成	○沿道利用や拠点整備等を見据えたインフラ整備 ・ 県道茂原白子バイパスの開通による沿道利用や拠点整備等を見据えた上下水道やガス、電気等のインフラの確保を図っていきます。
	○戦略的な産業誘致に向けた都市計画変更等の検討 ・ 県道茂原白子バイパスの開通を見据え、沿道の土地利用のあり方や必要となる都市計画環境の整備を検討します。
滞在快適性の向上	○滞在快適性の向上 ・ 河川沿いにベンチやトイレ等の設置を検討します。
テーマ：環境・エネルギー	
持続可能な未来につながる気候変動への対応	○施設整備に対する環境への配慮 ・ 生活・交流拠点ゾーンの整備にあたっては、緑化や省エネ対策を推進します。
テーマ：安全・安心	
自然災害に対する備え（自然災害に対する回避・低減）	○統合後の旧小学校校舎等の活用 ・ 安全な避難施設を確保するため、統合後の旧小学校校舎等を活用します。
	○災害に強く安心して暮らせるまちづくりの推進 ・ 河川氾濫の抑制のため、関係機関との連携・協議を図り、南白亀川の堤防整備を進めていきます。
災害時に対応した都市機能の確保と円滑な復興	○県道茂原白子バイパスの整備 ・ 災害時の避難、救護・救援、復旧・復興を支える道路として、県道茂原白子バイパスの早期整備に向けて、関係機関との連携を強化していきます。



(5) 関地域のまちづくりの方針図

■県道茂原白子バイパス

<暮らし>

- ・都市計画道路決定への手続きの推進

<交流・経済>

- ・沿道の土地利用のあり方やその実現化手法の検討
- ・沿道利用や拠点整備等を見据えたインフラ整備

<安全・安心>

- ・災害時に対応した都市機能の確保と円滑な復興

■統合後の旧小学校校舎等

<暮らし>

- ・旧校庭の利活用促進

<健幸>

- ・旧校舎等のスポーツ施設としての活用の検討

<安全・安心>

- ・旧校舎等の避難施設としての活用

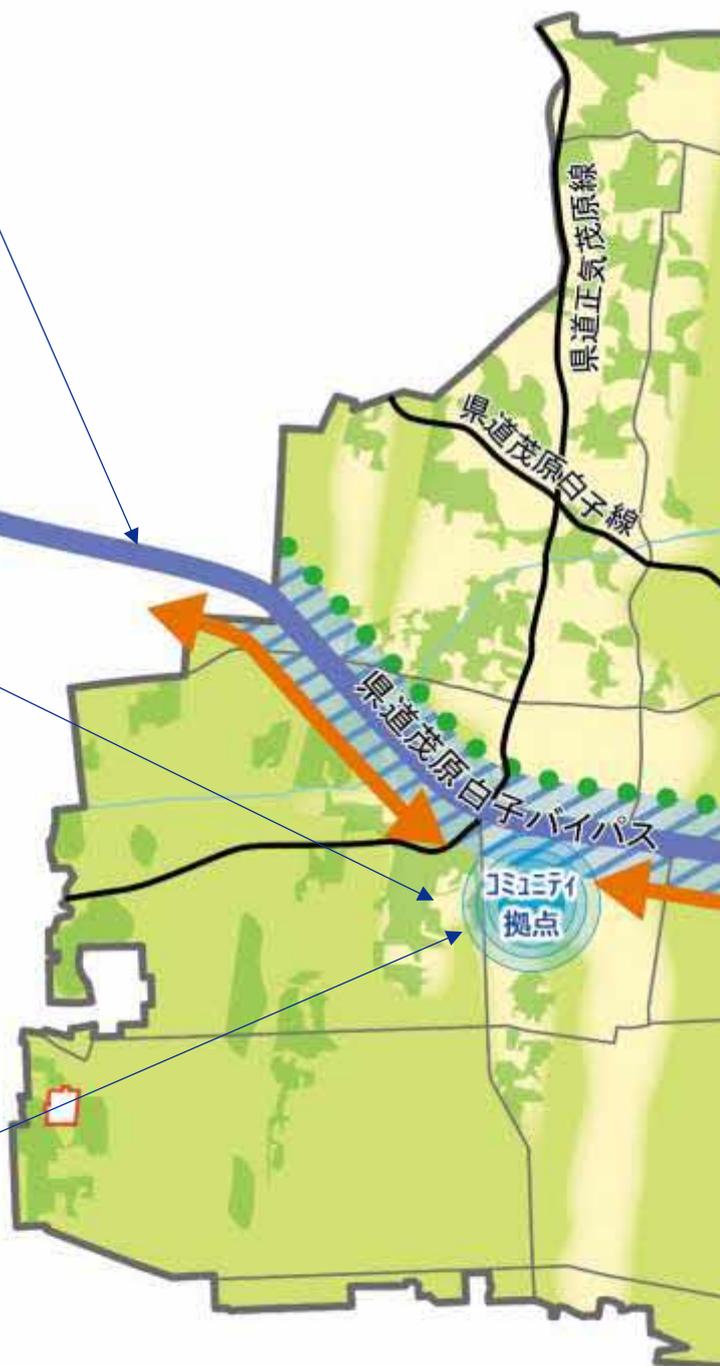
■コミュニティ拠点・健幸づくり拠点ゾーン

<暮らし>

- ・コミュニティ拠点ゾーンの形成

<健幸>

- ・健幸づくり拠点ゾーンの形成



凡例

拠点ゾーン	エリア	ネットワーク	交通・その他
● 交流拠点ゾーン	■ 交流エリア	↔ 広域ネットワーク	— 有料道路
● 生活拠点ゾーン (シビックコア)	■ 沿道利用エリア (産業等)	↔ 公共交通ネットワーク	— 県道
● コミュニティ拠点ゾーン	■ 住宅エリア	⋯ 歩行者・自転車ネットワーク (交流軸)	— 一般道
	■ 住宅・農地共生エリア		— 河川
	■ 平地林、屋敷林		



■河川沿い

<健幸>

・歩道整備やベンチの設置等、ウォーキングやサイクリングをサポートする空間づくりの推進

<交流・経済>

・ベンチやトイレの設置等による滞在快適性の向上

<安全・安心>

・関係機関との連携・協働による南白亀川の堤防整備の促進

■生活・交流拠点ゾーン

<暮らし>

・県道茂原白子バイパス開通を見据えた中心市街地の形成
・拠点の形成に向けた実現化手法の検討

<健幸>

・健幸づくり拠点ゾーンの形成、行政サービスや医療・福祉機能の集約
・徒歩や自転車でアクセス、回遊したくなる空間づくり

<交流・経済>

・交通結節機能や集客機能の確保

<環境・エネルギー>

・施設の整備にあわせた緑化や省エネ対策の推進

